令和6年9月4日

令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽北中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和6年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第２学年	国語	１４６人	社会	１４６人	数学	１４６人
	理科	１４６人	英語	１４６人		

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

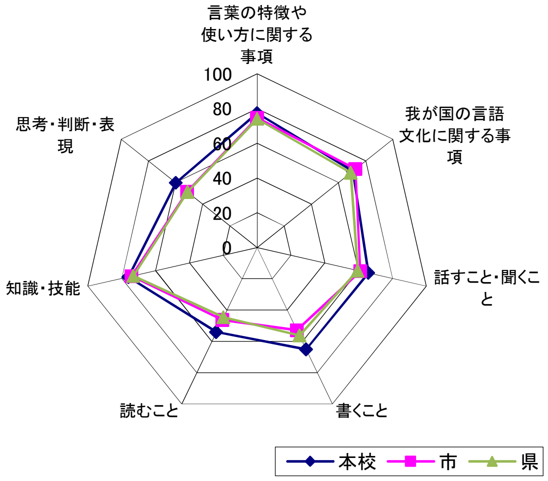
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽北中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.4	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	70.6	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	65.8	60.9	59.5
	書くこと	65.1	52.8	56.2
	読むこと	54.0	46.2	44.5
観点	知識・技能	76.0	74.2	73.1
	思考・判断・表現	59.7	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

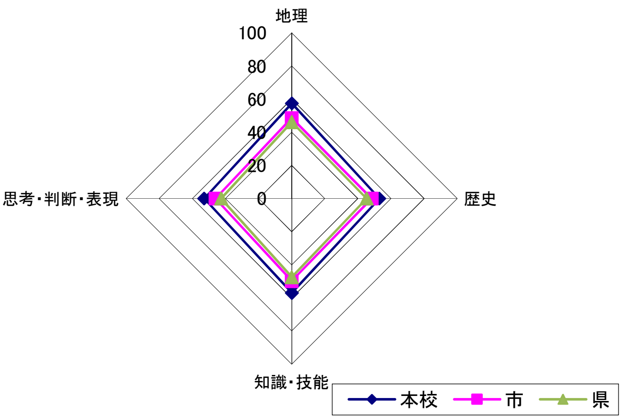
〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	〇全体的な正答率は市平均を2.7ポイント、県平均を3.3ポイント上回っている。 〇漢字の基本的な読み書きの問題の正答率は、「汚れ」の読みを問う問題を除く全ての問題で市・県の平均を上回っている。 〇文節どうしの関係を問う問題の正答率は、市・県平均を約5ポイント上回っている。 ●敬語に直したものと、その敬語の種類の組み合わせを問う問題において、市・県の平均を約7ポイント下回っている。	・引き続き、漢字の読み書きの学習を、漢字ワーク等を用いて指導し、その定着のために、小テストを実施する。 ・敬語については、敬語の種類や使い方を指導し、敬語で書いたり話したりする場面では、相互評価や、振り返りを通して、実生活の中でも適切に表現できるように指導を工夫していく。
我が国の言語文化に関する事項	〇全体的な正答率は市平均を1.9ポイント下回っており、県平均を1.5ポイント上回っている。 〇漢字の行書の基礎的な書き方を問う問題において、市・県平均を上回っている。 ●歴史的仮名遣い「ゆゑに」「つひに」を現代仮名遣いに直す問題は、市平均を6.3ポイント、県平均を2.1ポイント下回っている。	・昨年度の結果でも、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題に課題が見られたため、重点的に指導したが、今年度も同様に課題が見られた。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す際の基本的な決まりを指導するだけでなく、教科書以外の古文の音読の量を増やす指導を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	〇全体的な正答率は、市平均を4.9ポイント、県平均を6.3ポイント上回っている。 〇話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるかどうかを問う問題において、条件に従って話し合いの結論を書く問題についての本校の正答率が41.8%であり、市平均を10.1ポイント、県平均を12.4ポイントと大きく上回っている。	・様々な話題に対して、互いの発言の考えや根拠を適切に捉える学習を行い、聞き方の要点を抑えられるように指導を工夫する。 ・ある話題に対して、他人の考えを自分と比較しながら聞いて、話し合いの結論や自分の考えをまとめる活動を取り入れる。
書くこと	〇全体的な正答率は、市平均を12.3ポイント、県平均を8.9ポイント上回っている。 〇問題の全ての項目において、市平均、県平均を上回っており、条件に沿って文章を書き、読み取ったことを踏まえて、根拠を明確にして自分の考えを書くことができている。	・条件に沿って文章を書くことはある程度、習得しているので、様々な設定の問題に取り組ませて、書くことの能力を向上させていく。 ・書いた文章を相互評価したり、教師が観点を示して評価や解説をしたりすることで、書くことが苦手な生徒に対しての手立てとしていく。
読むこと	〇全体的な正答率は、市平均を7.8ポイント、県平均を9.5ポイント上回っている。 〇全ての問題の正答率が市・県平均を上回り、特に、情報と情報との関係について理解して内容を解釈する問題や表現の効果についての問題では、どちらも正答率が78%を上回っている。 ●文学的文章について、場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることができるかを問う記述式の問題の無回答率が41.1%であり、市・県平均とほぼ同様であった。	・正確に文章内容を読み取ることを指導する。接続する語句などに着目して読む習慣をつけさせ、文と文のつながりや内容のまとまりごとの関係性を捉えられるようになることで、読解の正確性が高まると考えられる。 ・授業の中でも叙述を基にして筆者の考えをまとめたり、登場人物の心情の変化についてまとめたりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立陽北中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	57.4	48.6	46.2
	歴史	53.0	48.3	45.3
観点	知識・技能	56.9	49.8	47.5
	思考・判断・表現	52.8	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

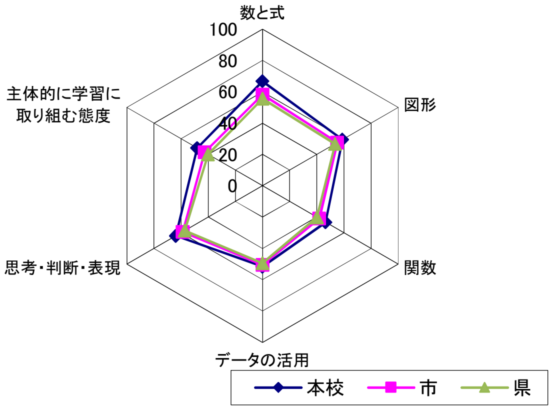
〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	〇全体的な正答率は市平均を8.8ポイント、県平均を11.2ポイント上回っている。 〇特に、評価の観点が思考・判断・表現の問題のうち、記述式で回答するものについては、いずれの問題においても市・県の平均を10ポイント以上上回っており、その能力の定着がみられる。 ●資料から世界各地の気候や人々の生活の様子を読み取り、その地域的特徴がどの場所で見られるものかを適切に考察しているかどうかをみる問題では、本校の正答率は23.3ポイントで、市平均を4.6ポイント、県平均を3.9ポイント下回っている。	・様々な資料や問いに触れることで、資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする活動の機会を設ける。 ・複数の資料を組み合わせて考察する活動の機会を設ける。 ・日記や紀行文等の文字資料から地理的な情報を適切に読み取り、考察する活動の機会を設けたい。また、地理的分野の問いであっても、歴史的分野をはじめとする教科横断的な知識を活用するような活動も取り入れる。
歴史	〇全体的な正答率は市平均を4.7ポイント、県平均を7.7ポイント上回っている。 〇特に、評価の観点が思考・判断・表現の問題については、すべての問題で市・県の平均を上回っており、その能力の定着がみられる。 ●室町時代の社会の様子についての理解をみる問題については、市平均を6.8ポイント、県平均を7.6ポイント下回っている。 ●室町時代の琉球王国を中心とする貿易関係についての理解をみる問題については、市平均を1.9ポイント、県平均を0.6ポイント下回っている。	・歴史的事象について、基礎的・基本的な知識・技能を確実に理解させる。 ・資料（史料）に触れる機会を増やし、問いに対して適切に情報を読み取る力を付けていく。 ・複数の資料を組み合わせて考察する活動の機会を増やし、資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする活動の機会を増やす。 ・室町時代の社会の様子について、農村部では惣が、都市部では商工業者たちによって座がつくられたこと、また、問についても確認させる。

宇都宮市立陽北中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	66.7	58.2	55.5
	図形	58.9	55.1	53.5
	関数	46.5	41.9	40.2
	データの活用	51.6	50.5	49.4
観点	知識・技能	63.9	58.8	57.3
	思考・判断・表現	48.2	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

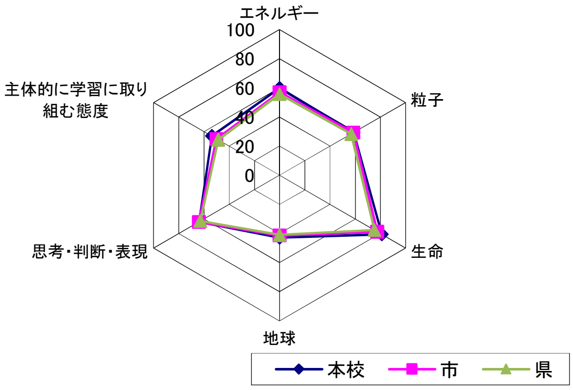
〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	〇全体的な正答率は市平均を8.5ポイント、県平均を11.2ポイント上回っている。 〇「１次方程式を解く」問題では、市と県の平均をそれぞれ8.4ポイント、11.4ポイント上回っている。 〇「１次方程式を立式する」問題では、市と県の平均をそれぞれ13.9ポイント、20.7ポイントと大きく上回っている。 ●「正と負の利用」の問題では、市と県の平均を、2.8ポイント、0.6ポイント下回った。	・1次方程式では、昨年度、計算力向上を目指して実施した「方程式検定試験」の成果が確実に現れている。今後も演習の機会を適宜設け、更なる向上を図っていきたい。 ・正負の数を利用するためには、まず基準（仮平均）を決めなくてはならない。基準（仮平均）の考え方を使って、より効率的に数値・平均を求めるために正負の数を利用すること、およびそのよさを生徒に感得させられるよう指導を工夫していく。
図形	〇全体的な正答率は市平均を3.8ポイント、県平均を5.4ポイント上回っている。 〇「垂線の性質を理解し、作図する」問題では、市と県の平均をそれぞれ15.9ポイント、17.3ポイント大きく上回っている。 ●「おうぎ形の弧の長さについて、半径が等しい円の円周の何倍であるかを答える」問題では、県の平均を2.3ポイント上回ったが、市の平均は1.2ポイント下回った。	・作図については、垂直二等分線や角の二等分線がどんな点の集まりなのかを理解させることで、課題解決に適した作図法が選択できるようにする。 ・柱体と錐体の体積の関係性については、模型や実験などを取り入れ、実感を伴って理解させていきたい。 ・おうぎ形の弧の長さの問題では、おうぎ形の弧の長さや面積と中心角との関係を確実に押さえるとともに、何をもとに考えるのかについてもしっかりと確認させていきたい。
関数	〇全体的な正答率は市平均を4.6ポイント、県平均を6.3ポイント上回っている。 〇「与えられた表をもとに、比例のグラフをかく」問題では、市と県の平均をそれぞれ13.5ポイント、15.1ポイントと大きく上回っている。 〇全ての問題で、市と県の平均を上回っている。	・関数領域では、2つの数量について、表・式・グラフを利用し、関連づけながら考えていくことが必要である。よって、それらを正確に作成できるよう引き続き指導するとともに、読み取りの活動なども多く取り上げ習熟を図っていく。 ・比例、反比例を利用したり活用したりする問題において、授業では身近な事象を取り上げ、その中に変域が隠されていることを意識させたい。また、事象とグラフの関係においては、多様な見方ができるようにするなどの活動を多く取り入れるようにしていく。
データの活用	〇全体的な正答率は市平均を1.1ポイント、県平均を2.2ポイント上回っている。 〇「データの傾向について相対度数を使って説明する」問題では、市と県の平均をそれぞれ6.4ポイント、7.9ポイント上回っている。 ●「累積度数を求める」問題では、市と県の平均をそれぞれ5.3ポイント、4.4ポイント下回っている。 ●「ヒストグラムの山の形が異なる理由を答える」問題では、市と県の平均をそれぞれ3.1ポイント、4.2ポイント下回っている。	・統計的な用語については、その意味も含め確実に身につけさせる。 ・生徒の興味関心を高めるために、身近にある資料で度数分布表やヒストグラムを作成する活動や分布の特徴を読み取る作業を多く取り入れていく。また、相対度数の必要性と意味を理解させ、資料の傾向を読み取ることができるようにしていく。

宇都宮市立陽北中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	59.9	57.0	55.7
	粒子	58.8	58.6	56.9
	生命	81.2	77.5	75.2
	地球	42.8	41.4	40.9
観点	知識・技能	63.9	64.1	62.8
	思考・判断・表現	53.9	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

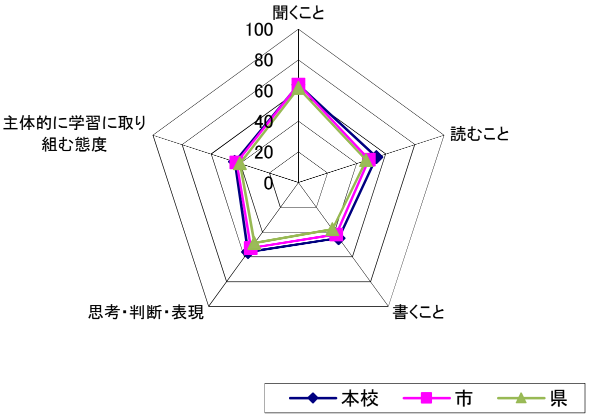
〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	〇全体的な正答率は市平均を2.9ポイント、県平均を4.2ポイント上回っている。 〇鏡に映った像が見える点を選ぶ問題と、光の反射の道すじを作図する問題の正答率は市・県の平均を上回っている。 〇音の速さを使って音源までの距離を求める問題の正答率は市・県の平均を上回っている。 〇ばねののびと力の関係についての問題の正答率は市・県の平均を上回っている。 ●入射角の位置を理解しているかどうかをみる問題において、市平均を7.4ポイント、県平均を5.5ポイント下回っている。	・自然現象を再現する模範実験を見せることで、学習内容と自然現象とのつながりを理解させる。 ・実験や学習内容を振り返る時間を設け、知識の定着を図る。 ・小テストや授業の復習を通して、用語や性質に関する理解を深める。 ・実物投影機やタブレットを活用し、事象を視覚的に捉えることができるようにする。 ・身近な例を示しながら、日常生活との関連性を意識させる。
粒子	〇全体的な正答率は市平均を0.2ポイント、県平均を1.9ポイント上回っている。 〇水溶液の温度と溶解度について理解しているかどうかをみる問題の正答率は市平均を4.4ポイント、県平均を6.1ポイント上回っている。 ●ガスバーナーの操作について正しい順番を選ぶ問題において、市平均を7.8ポイント、県平均を7.7ポイント下回っている。 ●質量パーセント濃度を求める式を選ぶ問題において、市平均を3.7ポイント、県平均を2.2ポイント下回っている。	・様々な水溶液の性質を調べ、溶解度や濃度といった概念を理解する。 ・分子モデルや図を用いて、物質の構造や変化を視覚的に捉え、抽象的な概念を理解する。 ・濃度の計算練習を繰り返し行い、公式の意味を理解する。 ・食塩水や砂糖水など、日常生活でよく見かける濃度の例を挙げ、身近な問題として捉えさせる。 ・ガスバーナーの構造、各部の名称、そして安全な使用方法について、動画を用いて学習する。 ・ガスバーナーの誤った操作によって起こりうる危険性を具体的に説明し、イメージできるようにする。
生命	〇全体的な正答率は市平均を3.7ポイント、県平均を6.0ポイント上回っている。 〇身近な植物を単子葉類と双子葉類に分類できるかどうかをみる問題において、市平均を5.6ポイント、県平均を6.9ポイント上回っている。 〇食べるものによる動物の分類について理解しているかどうかをみる問題において、市平均を3.5ポイント、県平均を3.9ポイント上回っている。 ●脊椎動物と無脊椎動物を分類できるかどうかをみる問題において、市平均を2.3ポイント、県平均を0.9ポイント下回っている。	・様々な生物の形態、生態、分類などを紹介し、生物の多様性に対する理解を深める。 ・異なる生物の特徴を比較することで、共通点や相違点を見出し、分類の概念を理解する。 ・動物図鑑や資料を用いて、様々な動物の画像や特徴を詳しく調べる学習活動を取り入れる。 ・よく間違えやすい動物の例を挙げ、なぜその動物が脊椎動物か無脊椎動物かについて詳しく説明できるようにする。
地球	〇全体的な正答率は市平均を1.4ポイント、県平均を1.9ポイント上回っている。 〇火成岩のつくりとでき方について理解しているかどうかをみる問題の正答率は、市・県の平均を上回っている。 〇地層の重なりに関する問題の正答率は、全ての問題において市・県平均を上回っている。 ●地震のゆれや震度について理解しているかどうかをみる問題において、市平均を6.7ポイント、県平均を6.2ポイント下回っている。	・地層の観察を通して、過去の環境や生物の痕跡を読み解く活動を行い、地層の形成順序を論理的に説明する力を育てる。 ・地震発生時の避難方法や防災グッズについて学習し、地震に対する備えの重要性を認識させる。 ・地震に関連するニュースや、過去の地震の記録を教材として活用する。 ・寒天やゼリーを用いて、地震波の伝わり方を模擬実験する。 ・定期的な小テストやドリル学習を通して、用語の正確な意味と使い分けを習得させる。

宇都宮市立陽北中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	63.8	64.0	61.6
	読むこと	53.6	48.4	46.6
	書くこと	45.0	42.0	37.8
観点	知識・技能	56.1	52.9	48.9
	思考・判断・表現	43.7	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	〇全体的な正答率は市平均とほぼ同じであり、県平均を2.2ポイント上回っている。 〇絵を適切に表している英文を選び、情報を正確に聞き取る問題では市・県の平均を上回っている。 ●対話の内容を聞き取り、適切に応答しているものを選ぶ問題において市・県の平均より下回っている。特に過去形を用いて尋ねられた文への回答率が市平均から5.4ポイント、県平均から3.4ポイント下回っている。	・授業の帯活動やALTの授業を通してリスニング力の向上に努める。 ・対話式のリスニング対策に関しては、既習内容の確認を踏まえた上でリスニング練習を重ねる。 ・話の概要を捉えて聞き進められるようキーワードに注目させリスニングを行い、実施後はスクリプトを利用して内容を確認する。 ・同時に即興での英語のやり取りがより充実するよう工夫し、リスニング能力の向上に役立てる。
読むこと	〇全体的な正答率は市平均より5.2ポイント、県平均より7ポイント上回っている。 〇問題の全ての項目において、市平均、県平均を上回っており、グラフから必要な情報を読み取る問題では市平均10.7ポイント、県平均より13.9ポイント上回っている。	・教科書内容を基本とした音読活動を行う。 ・短い文章から長い文章が読めるようになるよう、ディスコースマーカーやパラグラフごとの内容に注目させて読解できるよう指導する。 ・グラフなど文章以外の情報から必要な情報が読み取れるよう、多方面からアプローチされた内容のものを扱う。
書くこと	〇全体的な正答率は市平均より3ポイント、県平均より7.2ポイント上回っている。 ●疑問詞＋形容詞の問題(how many)を用いて数を尋ねる疑問文を完成させる並び替えの問題で市平均より4.6ポイント、県平均より1.7ポイント下回っている。 ●助動詞canの否定文を書く問題で、市平均より0.6ポイント、県平均より4.8ポイント下回っている。 ●紹介文を書く問題において、無回答率が市、県の平均より高い。	・既習内容を復習し、それらを活用して英文が正しく書けるよう指導する。 ・演習問題だけではなく、生徒が自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて英作文を行う時間を設ける。 ・添削やアドバイスを行い、徐々にまとまりのある文章が書けるよう指導する。

宇都宮市立陽北中学校 第２学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

〇良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

〇「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答割合は78.4％で、県平均より10.9ポイント、市平均より9.2ポイント上回っている。「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答割合は100％で、県平均より8.3ポイント、市平均より14.7ポイント上回っている。「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答割合は92.6％で、県平均より20.4ポイント、市平均より21.5ポイント上回っている。学習に自ら取り組む生徒が多く、今後も良い取り組みを紹介したり、学習計画表として視覚化したりして、主体的な学習意欲や態度を育成していきたい。

〇「1か月に、何冊くらい本を読みますか」について、10冊以上と回答した生徒の割合は21.7％で、県平均より4.7ポイント、市平均より6.8ポイント上回っている。1日当たりの読書時間も県や市の平均よりも多い。本校では「朝の読書」の時間を設けており、読書の習慣が定着してきたことや、学校図書館を活用した授業が多く行われていることから、読書を好む生徒が多いと推察される。

〇「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答割合は84.4％で、県平均より12.2ポイント、市平均より9.6ポイント上回っている。

〇「（教科の学習は）将来のために大切だと思いますか」の肯定的回答割合は、国語98.0％、社会87.8％、数学93.2％、英語90.5％と、県平均より4.5ポイント、9.1ポイント、6.3ポイント、1.8ポイント上回っている。多くの生徒が学習の有用性を感じており、学習意欲が高いと推察される。

●「理科の学習は好きですか」の肯定的回答割合は73.0％で、県平均より0.9ポイント、市平均より3.0ポイント上回っているが、その一方で、「理科の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答割合は80.4％で、県平均より5.4ポイント、市平均より2.9ポイント下回っている。また、「理科の学習は、将来のために大切だと思いますか」の肯定的回答割合は70.3％で、県平均より0.2ポイント、市平均より0.3ポイント下回っている。理科の学習が好きな生徒が多いので、授業改善によって分かりやすい授業を実践するとともに、有用性を実感できる学習内容を工夫していきたい。

●「美術の学習は好きですか」の肯定的回答割合は55.5％で、県平均より16.6ポイント、市平均より15.7ポイント下回っている。また、「美術の学習は、将来のために大切だと思いますか」の肯定的回答割合は36.5％で、県平均より13.1ポイント、市平均より11.1ポイント下回っている。

●「英語の学習は好きですか」の肯定的回答割合は54.1％で、県平均より5.5ポイント、市平均より6.2ポイント下回っている。「英語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答割合は70.3％で、県平均より5.7ポイント、市平均より5.8ポイント下回っている。また、「英語の授業のコミュニケーション活動において、コミュニケーションが途切れそうになるときには、様ざまな手立てを用いて、コミュニケーションを継続しようとしている」の肯定的回答割合は63.6％で、県平均より9.2ポイント、市平均より8.8ポイント下回っている。一方で、「英語の学習は、将来のために大切だと思いますか」の肯定的回答割合は90.5％で、県平均より1.8ポイント、市平均より0.8ポイント上回っており、生徒は英語が将来のために大切であると捉えている。授業改善などの工夫によって、英語の学習やコミュニケーション活が好きになる生徒を増やし、英語力を付けさせたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答割合は41.9％で、県平均より11.1ポイント、市平均より12.2ポイント下回っている。その一方、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答割合は93.3％で、県平均より3.1ポイント、市平均より2.8ポイント上回っている。「自分がもっている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答割合は98.0％で、県平均より5.2ポイント、市平均より4.9ポイント上回っている。生徒会活動やボランティアなどの活動を通して、自己肯定感や自己有用感、レジリエンスを高め、自信をもって行動や発言ができる生徒の育成に努めたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習の基盤となる態度や家庭学習(自主学習)習慣の育成	授業での課題やワーク等での復習を通して、家庭学習の習慣化・サイクルを整え、授業と家庭学習の一体化を図る。（授業→その日のうちにワーク等で復習（→次の時間に確認テストでチェック）→できなかった箇所は家庭学習で問題演習を重ねることで理解を深める～家庭学習ノートの活用）	「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の復習をしている」「学校の宿題は、自分のためになっている」と回答のした生徒の肯定的割合が、県や市の平均を上回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されている」で「はい」と回答した生徒の割合が市平均を12.1ポイント、県平均を18.7ポイント下回っている。また、「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」で「はい」と回答した生徒の割会が、市平均を13.9ポイント、県平均を19.2ポイント下回っている。	授業での目標（到達度）やめあて・ねらいを明確に生徒に示すようにしていく。	全教科を通して、「めあて・ねらいの提示」「指導」「まとめ・振り返り」のつながりを意識した授業作りを実践する。 ・生徒とねらいを共有し、生徒がねらいを自分のものとして自覚できるようにする。 ・指導では、思考力・判断力・表現力等を育成するため、授業において自分の考えを書く活動を意図的に位置付ける。また、書く活動と「説明」「話合い」などの活動を関連付けることで、自分の考えをまとめ整理させるようにする。 ・まとめ、振り返りは、ねらいを意識した振り返りとなるようにしていく。